

【出雲支部青年部会創立10周年記念式典・祝賀会】

実施日時：平成19年5月23日(水) 実施場所：ウェルシティ島根

私ども出雲支部青年部会は、本年おかげさまをもちまして創立10周年を迎えることが出来ました。これも偏に、関係諸官庁の皆様のご指導と、地域の皆様のご協力、そして中筋支部長をはじめとする親会の先輩諸兄の温かいご理解とご尽力の賜と、あらためて感謝申し上げます。

これを記念しての記念式典も、出雲県土整備事務所長 森山裕夫様をはじめ沢山のご来賓の皆様にご出席を戴き、厳粛な空気に包まれながら開催されました。式の中では、4名の歴代部会長の皆様のご功績を称え、顕彰の授与と、記念の品として「黄金のスcoop」の贈呈がありました。

式典終了後、記念祝賀会が開催され、終始和やかな雰囲気、青年部OBの先輩達とも久しぶりに楽しい時間を過ごすことが出来ました。

会の中では今回のために会員自らが製作した「出雲支部青年部のあゆみ」と題したDVDも上映され、創立時から脈々と受け継がれる「高い志」と「堅い友情」、そして設立のためにご尽力された先輩諸兄への「感謝と尊敬の念」を改めて感じる事が出来ました。

この日、今後更なる飛躍を互いに誓い合い、久文部会長のもと出雲支部青年部会の新しいスタートが始まりました。



久文部会長、感動の挨拶！



我々はいつまでも「井戸を掘ってくれた人」を忘れません。



歴代部会長の方々、本当にありがとうございました。

井戸を掘ってくれた人を忘れない

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会
部会長 久文 秀典

われわれ出雲支部青年部会は「次世代を担う若き建設人の資質向上」と「時代の過渡期における協会組織力の強化」を創立の趣旨に掲げ、平成9年7月17日、部員数58人をもって発足いたしました。

創立時のメンバーには、県青年部会の初代会長ともなられた山本恭則氏（初代部会長）をはじめ、後年、県副部会長ともなられる今岡裕統氏（第二代部会長）、別所幸雄氏（第三代部会長）、そして前期まで県部会長を務められた広戸修氏（第四代部会長）ら、そうそうたる顔ぶれがキラ星のごとく名前を連ねられ、各方面からも大いに将来を嘱望されての船出でありました。

以来10年…、偉大なる先輩諸兄は期待に違わず、熱き情熱と卓越したリーダーシップをもって精力的に事業に取り組み、創立の趣旨に勝るとも劣らぬ素晴らしい実績を積み重ねてこられました。

今日あらためて青年部史をひもとくと、先輩たちが情熱を傾けられた数々の事業が思い出とともに鮮やかによみがえってまいります。残念なことに創立準備段階のドラマについては、私の記憶には鮮明に残ってはいるものの、正史にはほんのわずかし記載されておられません。

「このままでは、青年部の創立にかかわった方々の功績が風化してしまう。」

私はこのたび10年の節目を迎えるにあたり、「青年部誕生のいきさつ」を知る最後の部員として、それを語る使命を痛感した次第であります。

…今をさること10年の昔、「業界の将来のためにも、次世代幹部の組織化は必ずや成し遂げなければならない！」と公言される県協幹部がいらっしゃいました。当時の本県業界は、現在とは比較できないほどに恵まれた環境にあり、いわば太平の時代を享受していたわけで、新たなる内部組織の必要性など、氏のほかには誰も考えていませんでした。

しかし、氏はまったく臆すること無く、当時県の協会長であった故藤井忠孝氏と直談判し、半ば強引に組織化準備の同意を取り付けられると、すぐに全県行脚を始められました。（支部ごとに、まずは青年部を立ち上げさせ、続いて連合体としての県組織を思考されたわけです。）

ところが…設立50年を経て巨大化し、硬直化した組織は決して一筋縄ではいきません。…「何でそんな組織を作る必要があるのか？」とか「支部を越えた活動など何の意味があるのか？」といった猛烈な議論が浴びせられたかと思うと、ある支部の代表からは「そんなことやってもムダ！」といった無気力な態度を見せられることもあり、まさに、一時は立ち上げさえも頓挫しかねないという状況でありました。

しかし、いかに困難があろうと氏は終始一貫して「青年部は協会のため、業界のために必ず必要となる！」と訴え続けられ、各方面に粘り強く交渉を重ねられた結果、氏の「思い」はついに現実化するに至りました。まさに大願成就、思う一念は巨岩をも動かしたのであります…。この氏とは、…誰ありましよう、現出雲支部支部長 中筋豊通氏 その人でありました。

われわれ出雲支部青年部はかくの如き偉大な先人たちのご指導よろしきを得て、現在に至るも、ゆるぎない強固な結束力を誇り県青年部会の中核として存在することを期待され続けております。時にはそのご期待が重く思えることもありますが、これもわが支部の宿命と肝に銘じ、精一杯頑張っていく所存です。わが部会の究極の存在理由は「共存共栄」、そしてその原点にあるは『井戸の水を飲むときには、井戸を掘ってくれた人の恩を忘れず』であります。

(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会 創立10周年記念事業

水谷修氏講演会「未来ある子供たちへ」

～いま、私たちができること、しなければならないこと～
を終えて



(社)島根県建設業協会出雲支部青年部会

副部長 日下 雅彦

昨年11月13日(火) 出雲市民会館において、青年部会創立10周年記念事業の目玉とも言える「水谷修氏講演会」を開催致しました。ここでは今回の記念事業を行なうに至った経緯と当日までの流れ、数々のエピソード等々を私の記憶の中からまとめてみたいと思います。

昨年の4月のある日のことでした。創立10周年記念式典の準備途中の頃、青年部会としてこの地域の皆さんに何か役立つ記念事業をやろうということで、役員で集まりました。記念式典の準備は着々と進められ、その記念式典の中で記念事業の発表をすることが決まっていた。記念事業の実行委員長を任された私はひとつの案を持っていました。しかしそれはあるメンバーの別の案が出るやいなや、部会長の「こっちがいいな」の一声で消滅しました。それ(私の案じゃないやつ)が水谷修先生(通称 夜回り先生)を迎えての講演会でした。



この案が出た時には、水谷先生についての情報は「元定時制高校の教師で青少年の犯罪防止を目的に繁華街を夜回りされ、全国各地で講演しておられるすごい人。そして講演会はいつも会場が満席だ。」という程度で、「夜回り先生」という名前を知るものが数人いる程度で、書籍やDVDから情報を得、詳しく知ったのはしばらく経ってからでした。



記念式典まであと数日のところで連絡が取れ、土木の日(11月18日)に近い11月13日(火)で行けそうところまでこぎつけました。しかし、記念式典の時点ではまだ確約は取れておらず記念式典の中では「青少年健全育成事業を行なう」とまでしか発表できなかったことは少し残念でした。

記念式典も無事終了、確約も取れ、いよいよ準備を始めることになったのは講演会当日まであと半年のある日のことでした。何度か実行委員会を開き打合せを行なっていくと、皆に一つの目標が生まれました。それは、会場の市民会館大ホールを超過員にして水谷先生の熱い講演を聴いてもらい、来場者に建設業の役割や建設業協会をアピールすること、そしてそれを会員全員でやろう、ということでした。

しかし、大きな目標を前に幾つかの問題点が出てきました。まず、集客です。市民会館は席数が1210席。いくら入場無料といっても市民会館が満席になることは難しいと思われるし、でも全国各地の講演会では会場に入りきれないほどの反響だし…。そこで、私たちは集客を3段階に分ける方法を考えました。まず、出雲市内、斐川町内の小中高校の保護者と先生、そして高校生から受付



し、その後一般公募からの受付、そして建設業協会関係者の受付をし、申込みされた方には入場整理券を発行することになりました。

学校関係はPTAや教育委員会へのPRを行い、チラシと申込書そして手作りの回収ボックスを持って会員が小中高校を回り、講演会の説明や申込みのお願いをして歩きました。一般公募はチラシの新聞折込みとケーブルテレビによるPR、そしてホームページ掲載と万全の体制で臨みました。準備のお手伝いや講演会の問い合わせの対応に

ついては、事務局の皆さんにご協力して頂き大変にお世話になりました。

各学校からの申込みは予想以上で一般公募も驚く程の申込みがあり、締め切りを待たずして予定数をオーバーしてしまいました。水谷先生からの希望で会場の外での映像による視聴は断られていたので、出来るだけ会場に入れる様、立ち見は最大限に、舞台袖にも協会関係者用に椅子を並べたりと工夫し、最後は歩止りまで計算し出来る限りの整理券を発行しました。それにしてもかなりの申込者にお断りせざるを得ず、それについての問合せも少なくありませんでした。入場出来なかった方すみません。

会場が超過員となるという予測の中で、駐車場や受付の対応、会場内の誘導整理、開演までの水谷先生の夜回り風景の放映。ロビーでは水谷先生の書籍やDVDの販売、そしてサイン会。そんな中での建設業協会のPR。「すごいことになりそうだ」と改めて気付いた時にはもう講演会当日まで2週間足らずとなっていました。



いよいよ講演会当日、会員全員での準備やリハーサル。水谷先生の到着を心待ちにしているところへ「こんにちは、お世話になります」と登場の水谷先生。先生の顔を見た瞬間「今日は成功だ!」と思わず心の中で叫んでいました。開演前には超過員(1330人)に埋め尽くされた会場、水谷先生の迫力ある講演、聴き入る聴衆。思わず感動しました。

建設業の役割と建設業協会のPRについては、ロビーへのパネル展示やのぼり旗の設置、入場者全員に配布する講演会チラシの裏面にも我々の活動をPRしました。PRの内容は私達が取り組んでいる活動として「災害時に昼夜を問わず自主的に行なう災害応急活動」と「国道や県道、公園等を清掃する国道まるごとクリーンアップ作戦等の社会奉仕活動」。そして、地元密着の地場産業である建設業者の青少年健全育成に対する想いを掲載しました。このPR活動は水谷先生の講演と共に会場の皆さんに感動的に伝わったと確信しています。



最後に今回の事業に後援いただきました各種団体や学校関係、お世話になりました親会の皆様、県青年部会の皆様、事務局の皆様、そして半年という長い間関わってこられた会員の皆様に感謝申し上げます。講演会の大成功を祝して「乾杯!」